

かせかけ

編集 沖縄県立看護大学
広報・情報委員会
発行 平成14年3月20日



目次

● 創刊によせて	2	● 学内共同研究&国際学会発表	8
● 本学の動向	3	● OPEN CAMPUS 2001	9
● 本学を訪問された皆さん	3	● 学生会の動き	
● シリーズ教育・研究分野の紹介	4	学生会紹介	10
● 教員紹介(よこがお)		楽しい「CIRCLE」活動	10
幻の大学教育 今井昭一教授	5	第3回看護大祭	11
歴史を織りなす日々 仲里幸子教授	6	● 教職員の動き(平成11~13年度)	12
● 学内委員会シリーズ 1			
国際交流委員会の挑戦	7		

Contents

創刊によせて

学長 上田 禮子



21世紀のキーワードの1つは「情報化」社会ですがグローバル化に伴って情報は地球を駆けめぐる時代になっています。

一方、どのような情報を選択し、どのように人々が活用するかということには、人々の価値観が関係しています。何を「良し」とし「何を悪い」とするのか、という価値判断の多様化の今日、事実に基づいた情報を、それを必要とする人々に提供することは大切な仕事となってきました。

単なる「うわさ」や「根拠に乏しい」情報を提供することは人々に混乱を招くことになるからです。

さて、本学では開学当初から学内の教職員や学生との間の意志疎通を図るために「くわっちー」という名称の半公的(Semi-Private)な情報誌を発行してきました。しかし、このような理由から「正確な情報を必要な人に提供する」ことの重要性を認識して広報・情報委員会が、大学の公的情報提供機関としての役割を担うことになり改組されました。

これが今回第1号を発刊するに至った経緯であります。学内外に関する種々の情報が含まれることになるとは思いますが、趣旨をご理解の上、本誌が活用されることを期待しております。



かせと枠

『かせかけ』とは

琉球古典舞踊女七踊りの一つです。^{かせ} 総とは、紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子指しています。

沖縄県立看護大学は、国際的視野に立つ看護職者の育成をめざしています。

この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って綺麗な着物に仕立てていく、その一途の心と地道にして洗練された「技術」・「感性」・「情熱」そして優しさは、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称としました。

本学の動向

- 平成11年4月1日
本学開学、上田 禮子学長他39名就任
- 平成11年4月7日
第1回入学式挙行
- 平成11年6月12日
沖縄県立看護大学後援会設立総会
- 平成11年7月16日
開学記念式典・祝賀会・記念講演開催
(演題:21世紀の科学と人間 演者:慶應義塾大学教授 米沢富美子氏)
- 平成11年11月28日
第1回キャンパスフェアを開催
- 平成12年2月5日
第1回公開講演会開催
(演題:WHO活動とヘルスプロモーション演者:大妻女子大学教授 高石昌弘氏)
- 平成12年3月29日
第2回公開講演会開催
(演題:社会福祉の動向と保健・医療・福祉の連携について考える 演者:沖縄県社会福祉協議会事務局 宮城健勇氏)
- 平成12年5月14日
開学1周年記念シンポジウム開催
(演題:21世紀に求められる看護—国際保健看護教育の方向—演者:イリノイ大学名誉教授 ビバリー・ヘンリー氏)
- 平成12年8月4日
第1回オープンキャンパス開催
- 平成12年12月2日~3日
第2回看護大祭(キャンパスフェアを改称)開催
- 平成13年2月14日
第3回公開講演会開催
(演題:子育て・親育て 演者:本学学長 上田 禮子氏)
- 平成13年5月12日
第4回公開講演会開催(シリーズとする)
(開学記念シンポジウムを改称)
(演題:Quality and cost of Health and Nursing care 「保健看護の質とコスト」
演者:本学教授 ビバリー・ヘンリー氏)
- 平成13年6月2日~3日
第3回看護大祭開催
- 平成13年7月3日
ハワイ大学との学術交流協定締結
- 平成13年7月29日~8月19日
第1回海外研修セミナー ハワイ2001
実施 (学生25人・引率教員3名参加)
- 平成13年8月4日
第2回オープンキャンパス開催
- 平成13年10月3日~平成14年1月9日
第1回公開講座(5回連続)開催
テーマ「健やかに老いる」
- 平成14年2月2日
児童虐待を考えるワークショップ開催

平成13年 本学を訪問された皆さん

- 5月31日
JICA、国立サモア大学学長顧問 原晃氏
学長表敬のため来訪
- 8月9日
放送大学沖縄学習センター長 尚弘子氏
学長面談のため来訪
- 9月23日
メキシコ国母子保健看護研修生(5名)来訪、9月28日JICA臨床看護実務研修(ボツワナ、カンボジア、クック諸島、セイシェルから5名)来訪
「研修内容:日本の看護教育、本学の国際保健看護教育及び本学の概要と看護教育」の研修後、学内の施設見学
- 10月9日~12日
平成13年度中国福建省看護婦研修(2名)来訪、
「研修内容:日本の看護教育、本学の看護教育及び講義見学、実習指導(基礎看護)の実際、ワークショップ」等の研修を行った。
- 11月6日
学術交流協定締結校ハワイ大学
Dr. Evan S.Dobelle 学長
Dr. Joyce S.Tsunoda 副学長
Mrs. & Mr. David Iha 事務総長ご夫妻
学長及び学内関係者と面談

シリーズ
1

【教育・研究分野の紹介】

基本科目 外国語

教授 山口 栄鉄

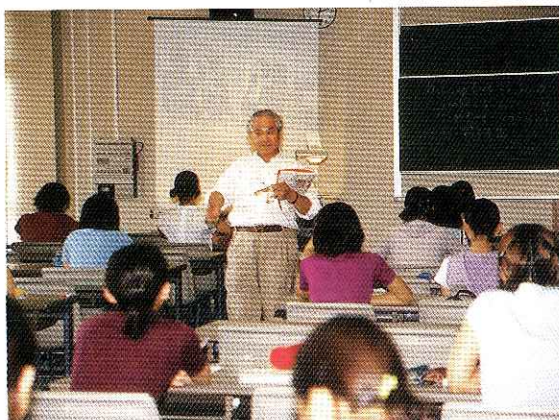
本学教育課程のいわば「礎石」をなすのが人文科学系、社会科学系、自然科学・情報科学系、保健体育そして外国語の5分野からなる「基本科目」群である。ここでは、基本科目のうちの外国語プログラムの概観を試みることにしよう。グローバル時代であろうがなかろうが外国語の素養は豊かな人間性の形成には欠かすことができない。そういう意味では基本科目群の他の四教科・分野と全く共通の使命を分かち合うものであり、「幅広い知識の涵養と謳われる本学の基本科目の重要な一翼を担うのが外国語プログラムである。

英語、スペイン語、中国語からなる外国語教科のうち、必修科目として扱われる英語は、さらに英会話、英作文、英語講読の三領域に分けられる。

その三つの領域は、しかし、「実用英語の運用・取得」という共通の理念・目的によって強く支えられている。そして、その理念は三領域とも Speak English Only という、はっきりした授業指針によって裏打ちされている。その理念を支える今一つの指針が英語を自国語として話す教官の活用である。

英語教科プログラムの有する以上の基本的な姿勢は、以下に記す具体的なクラス活動上の指針・ガイドラインとなって現れている。

1. 米国において、第二言語としての英語教授を目的に出版された教科書を用いる。
2. あくまでも「生きた教官」が主導であり第一義であり、最良のモデルである。LL教室・器具が最大の効果を発揮するには、「生きた最良モデル」となる教官の存在が不可欠であり、その最良のモデルとの併用によってのみ可能である。
3. 「国際保健看護」の分野との連結を究極の目的とする本学の英語教科プログラムは、二年次の前・後期に開講される英語講読IIIにおいて、今のところ試行錯誤の段階ではあるが、Martha J. Franklin 著 Guide to Professional Nursing 及び Ethel Tiersky/Martin Tiersky 共著 The Language of Medicine in English などの看護の世界で役に立つ英語の知識と運用能力の習得を目的とするテキストを活用している。



講義中の山口教授



講義中の C Willcox 講師

よこがお

このコーナーでは各領域の教員を紹介します。今回は、開学時から就任された教員の中から、人体構造・機能学系の今井昭一教授と地域保健看護領域の仲里幸子教授に登場いただきます。



幻の大学教育

教授 今井昭一

30年近く務めた新潟大学医学部を定年退官し、大勢の教室員の活発な研究活動を支える為の研究費集めの苦労からようやく解放されたと喜んでいたら、医学部時代のクラスメートから、看護教育のレベルアップのため、沖縄県が県立の看護大学を作ろうとしているが、医学の基礎を教える適任者がいなくて困っている、助けてやってくれぬかとの依頼があった。頼んできた友達が殆ど常に同じグループで実習をし、ソヴィエト医学研究会と一緒にロシア語の勉強をしたり、哲学論争を交わしたりした事もあった仲間だったし、私は私で、好奇心だけは旺盛で、見知らぬ土地に行く事にあまり抵抗を感じないたちなので、看護教育のレベルアップに役立つならとお引き受けし当地にやって来たが、半年も経たぬ中に、本土復帰後最大といわれる台風に遭遇したり、今年今年で20年ぶりという暑さに見舞われたりと、自然の猛威に、さすがは沖縄と恐れ入っているが、それよりも恐れ入ったのは、4年の課程を終えると、看護婦(士)だけでなく、保健婦(士)国家試験の受験資格も取れるし、場合によっては助産婦の資格も取れるという当大学の教育である。

万事に効率化が求められ、教育にも効率化の波が押し寄せている時代に、これは表彰ものの教育システムであり、「教育は無駄なり」と信じている我々は、ただただ恐れ入るばかりであるが、果たしてこれで看護教育のレベルアップが計れるのだろうか。

将来、専門職に就く人間が身につけねばならぬ事柄は、昔より増えているのに新制大学卒業者の小学校以来の修学年数は、医学部を除くと、旧制大学の卒業生よりも1年短いをご存じだろうか。

その為、獣医は修士までやらぬと国家試験の受験資格が得られぬように変えたり、病院薬剤師の重要性を考え、薬学部でも学部教育そのものを6年制にしようと言う運動がかなり以前から行われている。4年制大学の卒業生の学力不足を悟った為であろう、多くの製薬会社の研究所では学部卒業生を研究者として採用しなくなっている。唯一、旧制と同じ修学年数を維持した医学部でも、時間の不足から大変嘆かわしいことだが、教養課程を削って専門教育を低学年から始めるようにしている。

こんな時代であるから、本当に看護教育のレベルアップを考えるのなら、6年制にすることを考えてもよかったのではないかと思うのに、4年の課程で2つも資格が取れると言うのでは、レベルアップは難しきだろうと言うと、看護婦(士)と保健婦(士)とは学ぶべき事柄が重複しているので、統合すれば4年で充分なのだと言う。しかし、それはあくまでも看護学校の教育内容に基づく考えであり、大学を大学たらしめ、看護職者には殊更求められている一般教養に対する配慮が欠けている。

20歳前の多感な時代の1年、専門を離れ広く文学や芸術に親しんだり、科学の基礎をもう一度しっかり勉強し直したりする事は、将来の大きな発展に必須と私は考えるが、この大学では、入学早々始まる、医学や看護の教育の為に、教養科目は隅に押しやられてなきに等しい状態になっている。国際化を謳いながら、語学教育に格別な配慮がなされているとも思えない。これでは4年制の看護学校に過ぎず、大学で勉強しようと向学心に燃えて入って来た学生が可哀想だ。直ぐ役に立つ看護職者は、又、直ぐに役立たなくなる看護職者でもあり

得る事を忘れて貰っては困る。とは言え、長年大学院入試に2つの外国語を課していた医学部でも、実用性の低い第2外国語で学生に負担を強いる必要はないと言う主張が強くなって、今は1科目に

減らしたと聞く。せめて1年、学生に無駄をと主張するような時代遅れの人間は引退した方が良さそうである。3年間の所感を記して自己紹介の弁に代えさせていただく。



歴史を織りなす日々 教授 仲里幸子

沖縄県立看護大学が開学して、2年7か月の歳月が経とうとしている。1年5か月後には、第1回卒業生が誕生する。“光陰矢の如し”といわれているが学生や教職員も共に「時」の過ぎ去りゆくのを感じているこの頃と思う。

戦後、無よりスタートした沖縄の看護教育を、現在より振り返ってみると、多くの出来事があった。その中で最も大きな影響を及ぼした人物は、1950(昭和25)年1月に米軍政府公衆衛生部に看護専門官として来沖した、ワニタ・ウォーターワース(Junita.Wotterworth)である。

ウォーターワース専門官はオレゴン(Oregon)大学の卒業生であった。1960(昭和35)年6月に離任帰国するまで10年半の長期にわたって在任した。その間、沖縄本島のみならず宮古・八重山・奄美をはじめ、周辺離島をくまなく訪問し、保健・医療・看護・福祉の状況をきめ細かに把握し、指導・助言・援助にあたった。「看護は看護婦の手で」と常に国際水準をめざし、将来を展望しながら指導・助言にあたった。特に看護教育の中で特記すべき事は1951(昭和26)年、看護学校入学生より、琉球大学の単位を認めさせた事である。当時、琉球大学は、創立間もない事なので、無理だとしていたが、ウォーターワース専門官は、看護教育の大学教育を強く要望し、その実現に努力した。この制度は、1971(昭和46)年4月入学生より廃止され、更に1954(昭和29)年より琉球大学に委託学生制度が設けられ、1972(昭和47)年3月まで続けられ121人が修了し、沖縄の看護リーダーとして活躍してきた。これらのユニー

クな制度は本土には無い為、日本復帰に伴い廃止された。

ウォーターワース専門官は、看護の大学教育を強く要望したが、創立間もない琉球大学では困難なため、このような形で大学との連携を図ったのである。

1950(昭和25)年代より看護職者は常に看護の大学教育化を要望し続けた。

1968(昭和43)年、琉球大学設置法の一部改正により保健学部が設置され、翌年4月に第1期生が入学し、大学教育が実施された。

1988(昭和63)年、県知事は、県立コザ・那覇看護学校を整理統合し、将来は大学へ移行する方向で1991(平成3)年に両校は統合した。翌年より県立看護大学準備の検討がスタートし、1999(平成11)年県民待望の県立看護大学が開学し、多くの人々の努力により輝かしい歴史の1ページが開かれた。

情熱に溢れた、温かい、心のこもった指導をして下さった、今は亡きワニタ・ウォーターワース看護専門官の織りはじめて下さった歴史を、今後更に受け継ぎ大学院の設置等により看護教育の希望に満ちた歴史を学生・教職員と共に、織り続けていかなければならないと思うこの頃である。



学内委員会の紹介
シリーズ1

国際交流委員会の

挑 戦

助教授 金城 芳秀

本学の国際交流委員会*は枠に囚われない委員会です。枠とは予算および伝統のしがらみのことです。通常、何かを実行するには事前の計画、予算、そして機会が必要です。時には時機を逸せず、いま学生に必要なことに基づいてプログラムを企画・提案し、実行に移すことが重要です。開学当初から教員や父兄にアンケートを実施した結果として学生の海外研修の必要性を認める意見はありましたが、今夏に開始された海外セミナー「ハワイ2001」**は本委員会の行動力と事務局の腕力が示され、実現に至りました。このセミナーがいかに実り多い機会であったかは、まとめられた115頁の報告書が示しています。何よりも驚かされたのはセミナーに参加した学生の顔付きの変化です。夏期休暇中の3週間のイングリッシュシャワーで、後期の受講態度が積極的になり、こうも変貌するのかと、予期せぬ効果に驚いたのは私だけではないと思います。引率された比嘉良充、玉城清子及び渡久山朝裕の先生方はハワイ滞在中にひしひしと変化を感じとられ、帰国された時には話題にする必要はないほど、当然のように受け止められていたのかも知れません。この海外セミナーに積極的に自費参加した学生達が新しい道を開いたとも、研修前の準備の成果ともいえるでしょう。

国際交流委員会の別の顔をもう一つ紹介致します。沖縄は第二次世界大戦後、米国の統治下に置かれ、第一に米軍の安全確保という基本方針に基づくとは言え、腸炎、下痢症など感染症対策、結核対策がまず行われた、いわば健康政策実験地域です。特に離島・へき地においては、医療・保健の人材不足を補う医介輔や駐在した公衆衛生看護婦が地域医療の中心的な役割を担った独自の歴史的背景も持っています。このように戦後沖縄の保健医療政策は日本本土における展開とは相当に異なります。

前置きが長くなりましたが、過去・現在の沖縄の医療・看護を学ぶために、南米、アジアならびに太平洋州国から来訪する研修生を受け入れ、適切なプログラムを設定するのは、研修・研究委員会と国際交流委員会の役割の一つです。本年度に限っても、受け入れた、これから受け入れる研究生達は、ポリビア、パラグアイ、中国、クック諸島、マーシャル諸島、フィジー、ミクロネシア、サモア、トンガ、キリバス、パプア・ニューギニアなど10カ国以上36名に及んでいます。いかに沖縄の医療・看護が注目され、本学が注目されているかが伺えます。このように国内外のニーズを考えながら、本学に必要なプログラム、本学から提供できるプログラムは何か、研修・研究委員会と共に国際交流委員会の刺激的な模索は続いています。予算だけでなく、それこそ枠に囚われない国際交流委員会として、さらなる挑戦をわれわれは自らに期待しています。

- * 比嘉良充(委員長)、山口栄鉄、ビバリー・ヘンリー、玉城清子、渡久山朝裕、岡村 純、金城芳秀
- ** : 第1回 沖縄県立看護大学海外セミナー
ハワイ2001報告集



海外研修セミナー ハワイ2001から

学内共同研究 & 国際学会発表 (平成11年度～平成13年度)

1. 学内共同研究 (研究代表者)

(平成11年度)

- 沖縄県立看護大学における大学院教育の必要性の検討

(上田禮子)

- 国際保健・看護のあり方に関する教育的研究－沖縄県の場合

(仲里幸子)

- 入学試験別に見る入学後の学習状況

(加藤尚美)

- Western Reserve University医学部の教育方法を看護教育に取り入れることの可否の検討について

(今井昭一)

(平成12年度)

- 沖縄県有人離島における地域ケアシステム構築に関する研究－離島支援体制のモデル化をめざして－

(大湾明美)

- 沖縄県立看護大学における大学院教育の必要性の検討(継続)

(富山富士子)

- 看護大学における留学生・研修生の受け入れに関する研究

(岡村 純)

- 臨床現場における看護研究のあり方に関する研究

(ミヤジマ厚子)

- 沖縄県本島内の医療機関における看護退院時要約に関する研究－100床以上の病院における作成・利用の実態、有効性の検討－

(比嘉かおり)

(平成13年度)

- Research Training at OPCN to Assess, Improve, and Evaluate the Quality of Care: An Action Project for Course Content and Faculty Development「ケアの質を査定、改善、評価に向けた県立看護大学における研究研修：講義内容・教員能力の開発のためのアクション・プロジェクト」

(Beverly M Henry)

- 入学試験別及び入学試験成績と入学後の学内成績との関連に関する研究

(渡久山朝裕)

- 低出生体重児の出生要因とその後の成長発達に関する研究

(賀数いづみ)

2. 国際学会発表

(平成11年度)

- The Appraisal of Child Rearing (ACR) and Children at Risk. Reserch for Health, スコットランド (上田禮子)

(平成12年度)

- The Early Intervention for Mothers at Risk, Third International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing & Midwifery

マンチェスター (上田禮子)

- Measuring and Analysing Activities of Daily Living and Quality of Life in Community Elder Residents. Health Sciences in the Caribbean in the New Millennium

トリニダード・トバコ (新城正紀)

(平成13年度)

- Siblings' Concerning and Morthers' Identification of Siblings' Concerns on Children with Group A Xeroderma Pigmentosum. 1st World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine

オランダ (上田禮子)

- History of Nursing Education in Occupied Okinawa1945-1972. American Association for the History of Nursing, 18th Annual Conference

アメリカ (仲里幸子)

- Maternal and child Health. XIIth world Conference on Health Promotion and Health Education

フランス (安里葉子)

- Health Status, Social Support and Social Network for Community Elderly Residents. The 3rd International Nursing Conference

韓国(新城正紀)

OPEN CAMPUS 2001

助教授 金城 芳秀

オープンキャンパスは毎年8月の第一土曜日に行われます。といっても開学年度の1999年はオープンできなかったのが、2001年が第2回となりました。オープンキャンパスの目的は、本学のカリキュラムと施設の内容、キャンパスライフを来訪者に知ってもらうことです。来訪者は主として受験を控えた高校です。中学生やご父兄の参加も少なくありません。県内だけではなく県外からも参加されます。それでは過去2回のオープンキャンパスを振り返ってみます。

オープン前から待っている女子高生の制服姿には気が引き締まります。まず学内の散策から、重要な個別進学相談から、何やら迷っている人、十人十色のスタートです。進学相談の際に問い合わせのあった項目を列挙しますと、看護婦(士)、保健婦(士)、助産婦、養護教諭など取得資格とカリキュラムの違い、推薦制度(地域推薦、社会人推薦)、過去問の傾向と対策、留学・研修制度、他の看護系大学・看護師養成学校との相違など、どれもこれも真剣そのものです。受験生にとっては在学生の出身校、男女の割合、センター試験の平均点など、気になることはいくつもあるようです。教員との緊張感のある面接だけでなく、茶菓子をつまみながら和気藹々とした雰囲気の中での在学生とのフリートークは大好評です。待機している男子在学生は看護師を目指す者にとって頼もしい存在かもしれません。方向音痴のあなたには、在学生によるキャンパスツアーが安心です。来訪者の感想は「話ができてよかった」と「体験できてよかった」に代表されます。実は測定、模擬体験およびミニ講義が用意されていて、面白くてためになるのです。例えば、小児の心音や赤ちゃんの抱っこ体験、妊婦体験、血圧や血糖値で生活習慣病のチェック、あなたはお酒が飲めない体質?(アルコールパッチテスト)、車椅子やアイマスク体験、お年寄りが見ている世界(眼鏡装着)、手はちゃんと洗えているかな?(手洗い体験)、図書の検索システム、インターネット体験など、多

種多様なのです。本学の看護領域は基礎、小児、母性、精神、成人、老年、地域および国際から構成されていて、違いがわかるように楽しく企画されているのです。そして何よりも嬉しいのは、“看護大に入学したい”という来訪者の熱い眼差しです。このようにオープンキャンパスは立場を問わず、参加者がお互いを知る機会になっています。

2002年4月には1年生から4年生まで全学年が揃い、教育内容はますます挑戦的で発展的になっていきます。これから真価を發揮する看護大を一度訪問してみませんか。



熱心に進学の相談をする高校生

国際保健看護コーナーより

昨年のオープンキャンパスでは、「国際保健看護」に対する来場者の関心が高かったという声を受け、今年は、4月に赴任したビバリー・ヘンリー教授がそのコーナーを設けました。約20名の来場者ごとの入れ替え制で、ヘンリー教授によるミニ講義、在学生による体験談、グループトーク等からなる約30分のセッションが計5回ほど行われました。ミニ講義では、本学の講義内容における取り組み、ハワイセミナー、関連国際機関等が紹介され、「病気に国境はない。患者をケアするだけではなく、疫病予防や健康増進に貢献できるナースが求められている。」との言葉に、参加者は熱心に耳を傾けていました。続いて、在学生ボランティア3名が「国際的視点の重要性について学んでいる。」と同年代の立場で高校生に語りかけ、それぞれがグループリーダーとなってフリートークを持ちました。高校生からは、英語の上達法などの質問があり、それに対してヘンリー教授は、1年間の語学留学を勧めるとのことでした。話題は、ヘンリー教授が住むカリフォルニアにまでいたり、参加者にとっては、楽しみながら「国際保健看護」を考えるよい機会となったようです。

与那嶺 敦



学生会の動き

学生の意見が反映される
大学づくりをめざす活動を



学生会長
井加田 勝洋

関連行事の計画・実行等、学生活動の執行部ともいえる存在、それが私たち沖縄県立看護大学学生会です。今年度私たちは、学生の意思が尊重される大学、学生によって作られる大学を目指し、広く学生の意見を集めるため御意見箱を設置しました。

6月から新規の学生会となり活動しているわけですが、私たちの仕事は実に多く存在します。一年間の行事予定の立案、コピー機の管理、その他学生への連絡役になったり、学生からの要望を大学側に伝えたりするなど、いわば大学と学生の架け橋の役割を持っています。毎週火曜日に学生会室に集まり、行事の詳しい計画を立てたり、変更を話し合ったりするわけですから、非常に責任を伴う役目だと思えます。役員全員が行事を組み立てることに興味があり、自分の考えを反映させたいという思いの下集まっていることもあり、話し合いになると自然に多くの案が出され、和やかな雰囲気のもとで意見が飛び交わされます。

学生の自主性に任せるという方針の下、私たちの活動に大学側は基本的にはノータッチです。だからこそ、中立の立場から意見を出すことができるのです。

発足してまだ日が浅いのですが、より過ごしやすい大学、意見が反映される大学を目指して頑張っていきたいと思えます。



新入生歓迎バレーボール大会

仲間が集う

😊😊 楽しい 😊😊

—楽しい『CIRCLE』活動—

沖縄県立看護大学には、大小合わせても10個足らずのサークルしかありません。しかしながら大きなサークルでは活動も盛んでサークルとしては十分に活動しているといえます。その筆頭と言えるのが、ダイビングサークル、通称「海」部で、このサークルではスキューバダイビングやビーチパーティーを行っています。サークルに入ってダイビングのライセンスを取る人も多くいます。また、スポーツ関連では運動サークルがあります。ここは、週に2回ほど活動し、バスケをメインとしてその他多数のスポーツを行っています。人数が足りない時等は男女混合で行ったり、時々、先生方も参加する事もあり、実にユニークなサークルです。また、手話サークルもあります。ここでは、日常会話から医療で使える手話まで取り上げており、非常に看護生らしいサークルだといえます。また、忘れてならないのが軽音楽部です。看護祭の後夜祭で得意のギター演奏だけでなく、顧問の先生が独学のサクソを演奏したりと、このサークルにはかなりの実力派が揃っています。

まだ、しっかりとした活動をしてないサークルや、つぶれてしまったサークルもある看護大学ですが、今このように充実して過ごしています。

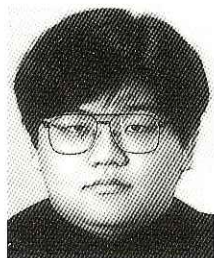
1年 井加田勝洋



楽しく・愉快地・はつらつと

第3回

看大祭 Festival



第3回看大祭実行委員会
委員長 赤嶺 武志

沖縄県立看護大学が開学して3年目、月日が流れるのは本当に早いものです。

第1回キャンパス・フェアでは学生数が少ないながらも多くの人の協力を得て成功させることができました。名前をかえた第2回看大祭でも同様に多数の教職員に支えられながら、一期生・二期生の協同のもとに大成功をおさめることができました。

第三回看大祭では、学年ひとりひとりの独創性と自主性を尊重し、各人が自分の長けた部分を最大限に表出しようというひとつの目標を立てました。なぜならば、私たち学生は過去の模倣ではなく、自ら考え判断し行動できる能力を育て、常に前進

していくことを目指しているからです。開催項目としては、看護に関連した事項を実演、展示する学生や、大学祭らしい販売・遊戯を実施する学生も多数ありました(看護実演・展示は4項目、販売・遊戯は11項目)。新入生、在学生在が学年を越えた友好・信頼を深めながら一つのことに向かって協力していく姿に、私は看大祭が成功する事を確信しました。来客者の皆様もわれわれ学生の「看護」の一場面にふれることで、看護の素晴らしさを実感したと思います。

来年は全学年が一同に揃い、さらに思考・工夫の凝らされた看大祭が行われるでしょう。



▲心肺蘇生法を体験する兄妹



▲出店コーナーも大賑わい



▲在学生とのフリートーク



▲看大祭準備に大忙し



▲いらっしゃいませ!

教職員の動き(平成11年度～13年度)

●平成11年度

就任

学長兼教授
教授
教授
講師
講師
講師
助手
助手
事務局長
学生係長
副主査
主事

上田 禮子
今井 昭一
富山 富士子
塚本 恵
宮城 政也
大田 貞子
玉代 勢良江
平井 哲夫
登野城 正一
徳嶺 祥子
當真 元毅

教務部長兼教授
教授
助教授
講師
講師
講師
助手
助手
総務課長
主査
主事

加藤 尚美
宮城 航一
棚原 節子
岡村 純
渡久山 朝裕
賀数 いづみ
ミヤジマ 厚子
渡名喜 紹信
平川理 恵子
金城 江利子

学生部長兼教授
教授
助教授
助教授
講師
講師
講師
講師
学生課長
主査
主事

仲里 幸子
山口 栄鉄
金城 芳秀
石川 りみ子
Craig Willcox
名城 一枝
上間 直子
宮城 進
新垣 かおる
玉那覇 りよ子

附属図書館長兼教授
教授
講師
講師
講師
助手
助手
総務係長
副主査
主事

比嘉 良充
嘉手苺 英子
天野 洋子
新城 正紀
仲宗根 洋子
安里 葉子
赤嶺 伊都子
山里 清枝
上運 天幸枝
島袋 秀樹

学内異動

総務係長 登野城 正一 学生係長 平川理 恵子

転出

総務係長 山里 清

●平成12年度

就任

教授
講師
助手
助手
助手
事務局長

伊藤 幸子
玉城 清子
佐久川 政吉
井上 松代
金城 忍
松本 淳

教授
講師
助手
助手
助手
学生課長

大嶺 千枝子
大湾 明美
金城 利香
比嘉 憲枝
前原 なおみ
中村 正賢

助教授
講師
助手
助手
助手
学生係長

吉川 千恵子
大川 嶺子
神里 千鶴子
西平 朋子
田場 真由美
比嘉 恵子

助教授
講師
講師
助手

藤村 真弓
川崎 道子
小川 なおり
比嘉 かおり

学内異動

主査(昇任) 上運 天幸枝

転出

事務局長 平井 哲夫 学生課長 宮城 進 学生係長 平川理 恵子 助手 上間 直子(退職)

●平成13年度

就任

教授
助手
学生課長

Beverly M.Henry
山城 桂
西 昇

助教授
助手
主幹兼学生係長

園生 陽子
伊礼 優
山田 浩

助手
助手
主任

与那嶺 尚子
河田 聡子
前上 蛭子

助手
主事

牧内 忍
石川 清秀

学内異動

参事監兼事務局長(昇任) 松本 淳 総務課長 中村 正賢 主幹兼学生係長(昇任) 比嘉 恵子 主査(昇任) 徳嶺 祥子

転出

総務課長 渡名喜 紹信 総務係長 登野城 正一 主査 上運 天幸枝 主事 島袋 秀樹

編集後記

「かせかけ」の第1号は企画から完成まで、ことのほか時間がかかりました。よりよいものをと模索した結果です。記事をお寄せいただいた方々と、発刊にご尽力いただきました事務局に御礼申し上げます。「かせかけ」によって、大学発の情報が多くの方々に伝えられ、理解と交流を深める橋渡しとなるよう願っています。

広報・情報委員会

沖縄県立看護大学

〒902-0076 那覇市与儀1丁目24番1号
TEL(098)833-8800 FAX(098)833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>